

おおつの歴史的風土と景観特性

都市景観の特性

都心部や主要鉄道駅前などを中心として、魅力ある新たな都市景観の形成が進んでいます。

その一方で、高層建築物の建設などにより、湖岸部の眺望景観や山並みのスカイラインを崩すなどの問題が生じています。

都心部では、駅周辺での都市開発、大規模商業施設やびわ湖ホールなどの文化施設の立地が進むとともに、大津港、なぎさ公園などの湖岸部におけるオープンスペースの整備などにより、新しい顔が形成されつつあります。また、計画的な住宅地開発は、良好な住宅地景観を形成しています。

近江大橋、琵琶湖大橋は、「湖都」大津を象徴する都市のモニュメントとして、また幹線道路は街路樹の整備など都市の軸線として、新たな都市景観の魅力を形成しています。

さらに、湖岸緑地、河川緑地の整備、丘陵地などにおける公園整備などにより市全域の都市景観に潤いを与える緑と水の拠点が形成されつつあります。

しかし一方で、高層建築物などにより眺望景観を崩すといった問題が生じています。また、交通の要衝であることから、幹線道路沿道には商業施設が集積し、周辺と調和しない色彩の広告物などにより沿道景観が乱れてきています。

その他、山麓部では大規模な住宅地開発などによる自然環境の後退や、市街地河川では緑地の管理不足や水質の汚濁などの問題もみられます。

